
IS外伝編 ～魔法少女ほうき マギカ～

ベガF91

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS 外伝編 〽魔法少女ほつき マギカ〽

【Nコード】

N1255R

【作者名】

ベガF91

【あらすじ】

今期アニメのクロスオーバーです。まどかたちの設定は原作の少し未来の話です。

（前書き）

読みきりです。人気あれば連載は考えておきます…。

私はある日のこと、知らない場所にいた。

「なんだ、ここは…？」

ただ、何も無い真っ白な場所だった。誰もいないし、いたいここはどこなんだ？

「やっとあえたね」

「！？」

声の方に振り返ると小さい小動物がいた。声の主はこの小動物なのか？

「お前は誰だ？」

私はその小動物に聞いてみた。だが、さっきの声は本当にこの小動物なのか？

「僕の名はキュウベえ」

この小動物だ…！しかし、キュウベえとは、また不思議な名前だな…。

「ねえ、おれは第」

一瞬びくつとした。なんで私の名前を知ってるんだ？

「僕と契約して、魔法少女になつてよ」

「ま…魔法少女…!？」

はは…、何を言い出すんだ、コイツは？魔法少女？それもなぜ私が…

「はっ!？」

気がつけば、もう朝だった。

「…夢…？」

どうやら夢だったようだ…。IS学園はもう夏休み。夏休みの日にあんな夢を見るなんて、私はどうかしてる！昔、よく女の子たち誰もが憧れた魔法少女。でも私は興味がなかった。昔から剣道をやっているから、魔法少女なんてよくわからなかった。

私はいつものように朝ごはんをとり、食堂に行った。そこには…

「おはよ、篝」

「ああ…」

私の幼馴染、織斑一夏がいた。いつものようにあいさつをした。嬉しいんだが、今日の私はちょっと気持ちが悪くもやしている。理由はあんな夢を見たからだ。

「どうした？なんか元気ないみたいだけど」

「なんでもない」

こんなやつに言ったらなんて言われるか…！そんなことを思ってるうちに一夏は再度聞いてきた。

「なんかいつもの箒じゃないな。なんかあったの？」

「それは…」

うう…、ここまで言われると…。だが、夢のことは…

「話してみなよ、笑わないから」

「ほんとか!？」

「ああ」

そ…そこまで言うなら…。私は一夏のことを信じて昨日見た夢のことを話した。そしたら一夏は不思議な顔をした。

「へー、箒も魔法少女に憧れてたんだ…」

「別に憧れてたんじゃない！たまたま、あの夢を見ただけだ！」

「そうか。でも、もし箒が魔法少女になってたら、どんな姿だろうな…」

「ばっバカなことを言うな！この世に魔法なんてあるわけでもないし…！もう私は行くからな！」

「あ、等。悪かったって…」

「一夏さん、ちょっといいですか？」

「ああ、ちよっ、セシリア…」

「ちよっと！一夏はあたしに用があるの！」

「鈴！？」

「でも私の方が先でしょ」

「最初に用があるのはあたしよ！」

むこうでなにかおきてるが私は見もせずに学園の外に出た。

「…」

やはり、夢のことが気になる。魔法なんてこの世にあるはずが無いのに…。どうして気になってしまっただろうか…。あのキュウベえとか言う小動物は…

「やあ」

「えっ！？」

すると目の前に白い小動物がいた。あれは…まさか…！？

「キュウベえ！？」

「そつだよ、箒」

「な……」

なぜ夢でていたキュウベえが……！？……ああ、これは夢なのか……。そうかそうか、だとしたらキュウベえなんて……

ポン

「あ……」

「これは夢じゃないよ」

突然私の頭の上に乗っかってきた。私はすぐさまキュウベえを手で掴み取った。

「お前、人の頭に勝手に……！あ……！」

その時、突然あたりが迷宮のような世界になった。なに？なにが……

「いったいなにがおきているんだ……！」

「魔女がきたんだよ」

「魔女……！？」

魔女とはいったい！？だが、考えてる暇はない……！周りにいるなにが不気味な生き物がまわりにいるからだ

「こうなったら、【紅椿】で……」

すぐさま、ISに切り替えようとした。だが…

「あ…あれ？変身できない…！」

なぜだ！？なぜ変身ができないんだ…？考えてるうちに不気味な生き物が襲ってきた…。

「うわあああ…！」

もう、駄目かと思った…。

バシユウウ

「…え！？」

「大丈夫ですか？」

「あ…」

弓矢をもったコスプレを着たピンク髪の女の子が助けてくれた。

「いやー、遅いよまどか」

「ごめんね、キュウベえ」

私はただ、啞然と見ていた。いったいなにがおきてるのか？突然コスプレを着た女の子が出てくるなんて…、もしかして…

「魔法少女…なのか…？」

「はい。ちょっと事情がありまして」

魔法少女…。これが夢でキュウベえが言っていた…。

ズバァ

「まさか、一般の人が紛れ込んでるとはねえ」

「さやかちゃん」

今度は剣を持った青い髪の女の子が出てきた。あの子も魔法少女か…。

「ところで、あなたのお名前は？」

「わ…私は篠ノ之箒^{しののほうき}。IS学園の生徒だ…」

思わず自己紹介をしてしまった。

「IS学園ってあのISの操縦の」

「さやかちゃん、そうじゃなくて…」

魔法少女ってこんなのか？弓矢や剣を持っているが、なにか杖をもつて女の子の夢をかなえるものじゃ…。

「2人とも、魔女が来たわ」

「「マミさん」「

今度は金髪の女の子がやってきた。たぶん、3人のなかで年上みた
いだな…。

「魔女？」

「あれよ」

指差したほうを見るとさらに不気味なやつが出てきた。

「あれが魔女…?!」

「そう、でもあなたはここで待っていてください」

「あ…ああ…」

「さ、行きましょ」

「「はい!」」

その時、金髪の子の帽子から銃が何本かでてきた。そのまま、銃で
魔女とか言うやつを撃っていて、青い子は剣を使って戦い、ピンク
の子は弓矢で狙いをさざめて撃っていた。これが魔法少女…？私
のイメージとは全然違う…。

「そろそろフィナーレよ!」

といい、金髪の子がでかい銃をだしていた。

（あんなものどうやって…。これも魔法なのか…!？）

「ティロ・フィナーレ!!」

バキュウン

そして魔女は倒され、迷宮も消えていき、元の世界に戻った。

「やったのか…?」

「ええ」

「それで、君たちはいったい…?」

「私は鹿目まどかです」

「あたしは美樹さやか」

「私は巴マミ」

「それで…、魔法少女ってあんなものなのか!?!」

思わず力が入ってしまった…。

「は…はい…」

「まあ、キュウベえに選ばれた魔法少女ってこの人なんだ」

「うん」

選ばれた? 私が…?

「それよりも魔法少女のこと、この人に教えないと…」

マミが私に魔法少女のことを教えてくれた。

「魔女にグリーンフシードか…。信じられないが、あんなものを見せられたんだし、信じるか…」

「それで、箒にお願いがあるんだ」

「契約して魔法少女になれと…？」

「うん」

「のりこみが速いわね」

「うーん…」

私は考えた。だが、確かに凄かったのだが…

「私は…まだ魔法少女にならなくてもいい…」

「え？」

「元々、魔法少女なんて興味ないしな…。」

「そうか…」

少し、落ち込んだ顔をしているまどかたち。うう…そんな顔されては…

「だ…だけど、まどかたちが私の力がどうしても必要な時、なっ
てやってもいいぞ…」

「本当かい？」

「ああ…」

まどかたちは嬉しそうな顔をした。

「その時までに来るからね」

「ああ、いつでも待ってる！」

「じゃあね」

「それじゃあ、さようなら」

「また会おう」

「それでは…」

まどかたちは帰っていった。…勢いで言ってしまったな…。もし来たら、どうしようか…。

「箒ー。こんなところにいたのか」

「一夏」

「さっきは悪かった。でも、お前の魔法少女姿、いったいどうなの

かちよつと想像しちゃって…」

「……見たいか？」

「え？」

「私の魔法少女姿……」

「うーん、もしなれたらの話だけだな」

「そうか……」

魔法少女も…悪くは無いな…。

終

（後書き）

いかがでしたか？魔法と化学の融合も悪くは無いかなーっと思いましたが。人気があれば連載もしたいなーっと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1255r/>

IS外伝編 ～魔法少女ほうき マギカ～

2011年10月8日13時38分発行